

アダリムマブBS皮下注20mgシリンジ0.2mL 「MA」
アダリムマブBS皮下注40mgシリンジ0.4mL 「MA」
アダリムマブBS皮下注80mgシリンジ0.8mL 「MA」
アダリムマブBS皮下注40mgペン0.4mL 「MA」

【この薬は？】

販売名	アダリムマブBS 皮下注20mg シリンジ0.2mL 「MA」 Adalimumab BS Subcutaneous Injection 20mg Syringe 0.2mL MA	アダリムマブBS 皮下注40mg シリンジ0.4mL 「MA」 Adalimumab BS Subcutaneous Injection 40mg Syringe 0.4mL MA	アダリムマブBS 皮下注80mg シリンジ0.8mL 「MA」 Adalimumab BS Subcutaneous Injection 80mg Syringe 0.8mL MA	アダリムマブBS 皮下注40mg ペン0.4mL 「MA」 Adalimumab BS Subcutaneous Injection 40mg Pen 0.4mL MA
一般名	アダリムマブ（遺伝子組換え） [アダリムマブ後続3] Adalimumab (Genetical Recombination) [Adalimumab Biosimilar 3]			
含有量 (シリンジ又は ペン1本中)	20mg	40mg	80mg	40mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、抗TNF製剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- ・この薬は、異常に増えている腫瘍（しゅよう）壊死因子（TNF）という炎症や痛みの発現にかかわっている物質に作用し、症状を改善します。

- ・次の病気の人に処方されます。

[アダリムマブBS皮下注20mgシリンジ0.2mL「MA」、アダリムマブBS皮下注40mgシリンジ0.4mL「MA」、アダリムマブBS皮下注40mgペン0.4mL「MA」の場合]

既存治療で効果不十分な下記の疾患

多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎

[アダリムマブBS皮下注40mgシリンジ0.4mL「MA」、アダリムマブBS皮下注40mgペン0.4mL「MA」の場合]

既存治療で効果不十分な下記の疾患

X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎

[アダリムマブBS皮下注40mgシリンジ0.4mL「MA」、アダリムマブBS皮下注80mgシリンジ0.8mL「MA」、アダリムマブBS皮下注40mgペン0.4mL「MA」の場合]

関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）

既存治療で効果不十分な下記の疾患

尋常性乾癬、乾癬性関節炎、膿疱性乾癬

強直性脊椎炎

腸管型ベーチェット病

非感染性の中間部、後部又は汎ぶどう膜炎

中等症又は重症の活動期にあるクローン病の寛解*導入及び維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）

* 病気そのものは完全に治癒していないが、症状が一時的あるいは永続的に軽減または消失すること。

中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の治療（既存治療で効果不十分な場合に限る）

- ・この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者さんまたは家族の方は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減したりせず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○患者さんは以下の点について十分理解できるまで説明を受けてください。

理解したことが確認されてから使用が開始されます。

- ・この薬を使用することにより、結核、肺炎、敗血症を含む重篤な感染症および脱髄疾患（だつずいしっかん）（多発性硬化症など）が発生したり悪化したりすることがあります。
- ・この薬との関連性は明らかではありませんが、悪性腫瘍の発現も報告されています。
- ・この薬は病気を完治させるものではありません。

また、重篤な副作用により、致命的な経過をたどることがありますので、副作用があらわれた場合には速やかに主治医に連絡してください。

○使用する前に悪性腫瘍（特に、非黒色腫皮膚がん）の有無に関して検査などが

行われ、使用中も定期的に検査などが行われます。

- この薬の使用により致命的な感染症（敗血症、肺炎、真菌感染症を含む日和見感染症など）や結核（播種性結核（はしゅせいけっかく）および肺外結核を含む）による死亡例が報告されています。すでに結核に感染している人では結核の症状があらわれたり悪くなったりすることがあるので、使用する前に問診および胸部X線検査に加え、インターフェロン- γ 遊離試験またはツベルクリン反応検査が行われ、場合によっては胸部CT検査などが行われます。
- 脱髄疾患の人や過去に脱髄疾患であった人には使用できません。また、脱髄疾患が疑われる人や血縁に脱髄疾患になった人がいる人は画像診断などの検査が行われます。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・敗血症などの重篤な感染症の人
 - ・活動性結核の人
 - ・過去にアダリムマブBS皮下注「MA」に含まれる成分で過敏症のあった人
 - ・脱髄疾患（多発性硬化症など）および過去に脱髄疾患であった人
 - ・うっ血性心不全の人
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
 - ・感染症の人または感染症が疑われる人
 - ・過去に結核にかかったことのある人または結核の感染が疑われる人
 - ・脱髄疾患が疑われるような徴候がある人および血縁に脱髄疾患になった人がいる人
 - ・重篤な血液疾患（汎血球減少、再生不良性貧血など）の人または過去に重篤な血液疾患になったことがある人
 - ・過去に間質性肺炎になったことがある人
 - ・妊婦または妊娠している可能性のある人
 - ・授乳中の人
- この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。
- B型肝炎ウイルスにかかっている人、または過去にかかっていたことがある人がこの薬を使用すると、B型肝炎ウイルスの再活性化があらわれる可能性があります。このため、この薬を使用する前に血液検査で、B型肝炎ウイルスに感染しているかどうかを確認されます。
- この薬を自己注射するにあたって、患者さんや家族の方は危険性や対処法について十分に理解するまで説明を受けてください。また、使用済みの注射器の廃棄方法などについて十分に理解できるまで説明を受けてください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

〔自己注射する場合〕

●使用量および回数

使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

〔関節リウマチの場合〕

通常、成人の使用量および回数は、次のとおりです。

一回量	40mg シリンジまたは 40mg ペン 1 本
使用回数	2 週に 1 回

- ・効果が不十分と判断された場合のみ、40mg シリンジまたは 40mg ペン 2 本または 80mg シリンジ 1 本が使用されます。
- ・この薬は、使い始めから 3 ヶ月以内に効果が得られますが、3 ヶ月使用しても効果が得られない場合は、使用が中止されることがあります。

〔尋常性乾癬、乾癬性関節炎、膿疱性乾癬の場合〕

通常、成人の使用量および回数は、次のとおりです。

初回量 (右のいずれか)	40mg シリンジまたは 40mg ペン 2 本
	80mg シリンジ 1 本
2 回目以降の量	40mg シリンジまたは 40mg ペン 1 本
使用回数	2 週に 1 回

- ・効果が不十分と判断された場合のみ、2 回目以降でも 40mg シリンジまたは 40mg ペン 2 本または 80mg シリンジ 1 本が使用されます。
- ・この薬は、使い始めから 4 ヶ月以内に効果が得られますが、4 ヶ月使用しても効果が得られない場合は、使用が中止されることがあります。

〔強直性脊椎炎の場合〕

通常、成人の使用量および回数は、次のとおりです。

一回量	40mg シリンジまたは 40mg ペン 1 本
使用回数	2 週に 1 回

- ・効果が不十分と判断された場合のみ、40mg シリンジまたは 40mg ペン 2 本または 80mg シリンジ 1 本が使用されます。
- ・この薬は、使い始めから 3 ヶ月以内に効果が得られますが、3 ヶ月使用しても効果が得られない場合は、使用が中止されることがあります。

〔X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎の場合〕

通常、成人の使用量および回数は、次のとおりです。

一回量	40mg シリンジまたは 40mg ペン 1 本
使用回数	2 週に 1 回

- ・この薬は、使い始めから 3 ヶ月以内に効果が得られますが、3 ヶ月使用しても効果が得られない場合は、使用が中止されることがあります。

〔多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎の場合〕

通常、使用量および回数は、次のとおりです。

一回量	体重15kg以上30kg未満	20mg シリンジ 1 本
	体重30kg以上	40mg シリンジまたは 40mg ペン 1 本
使用回数		2 週に 1 回

- ・この薬は、使い始めから 3 ヶ月以内に効果が得られますが、3 ヶ月使用しても効果が得られない場合は、使用が中止されることがあります。

【腸管型ベーチェット病の場合】

通常、成人の使用量および回数は、次のとおりです。

初回量 (右のいずれか)	40mg シリンジまたは 40mg ペン 4本
	40mg シリンジまたは 40mg ペン 2本および 80mg シリンジ 1本
	80mg シリンジ 2本
2回目の量 (右のいずれか)	40mg シリンジまたは 40mg ペン 2本
	80mg シリンジ 1本
3回目以降の量	40mg シリンジまたは 40mg ペン 1本
使用回数	2週に1回

- ・この薬は、3ヵ月使用しても効果が得られない場合は、使用が中止されることがあります。

【中等症又は重症の活動期にあるクローン病の寛解導入及び維持療法の場合】

通常、成人の使用量および回数は、次のとおりです。

初回量 (右のいずれか)	40mg シリンジまたは 40mg ペン 4本
	40mg シリンジまたは 40mg ペン 2本および 80mg シリンジ 1本
	80mg シリンジ 2本
2回目の量 (右のいずれか)	40mg シリンジまたは 40mg ペン 2本
	80mg シリンジ 1本
3回目以降の量	40mg シリンジまたは 40mg ペン 1本 効果が弱くなったと判断された場合は、40mg シリンジまたは 40mg ペン 2本または 80mg シリンジ 1本が使用されることがあります
使用回数	2週に1回

- ・この薬は、使い始めから1ヵ月以内に効果が得られますが、1ヵ月使用しても効果が得られない場合は、使用が中止されることがあります。
- ・効果が不十分と判断された場合は、使用が中止されることがあります。

【中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の治療の場合】

通常、成人の使用量および回数は、次のとおりです。

初回量 (右のいずれか)	40mg シリンジまたは 40mg ペン 4本	
	40mg シリンジまたは 40mg ペン 2本および 80mg シリンジ 1本	
	80mg シリンジ 2本	
2回目の量 (右のいずれか)	40mg シリンジまたは 40mg ペン 2本	
	80mg シリンジ 1本	
3回目 以降の量	2週に1回 (右のいずれか)	40mg シリンジまたは 40mg ペン 1本
		40mg シリンジまたは 40mg ペン 2本
		80mg シリンジ 1本
	毎週1回	40mg シリンジまたは 40mg ペン 1本
使用回数	2週に1回、あるいは患者の状態に応じて3回目 (初回から4週後) 以降毎週1回	

- ・この薬は、使い始めから2ヵ月以内に効果が得られますが、2ヵ月使用しても効果が得られない場合は、使用が中止されることがあります。

【非感染性の中間部、後部又は汎ぶどう膜炎の場合】

通常、成人の使用量および回数は、次のとおりです。

初回量 (右のいずれか)	40mg シリンジまたは 40mg ペン 2本
	80mg シリンジ 1本
2回目以降の量	40mg シリンジまたは 40mg ペン 1本
使用回数	2回目は初回から1週間後に投与し、以降2週に1回

●どのように使用するか？

- ・自己注射を開始する前には、必ず医師または看護師から自己注射のしかたに関して説明を受けてください。また、末尾の「自己注射の方法」、自己注射される方への小冊子「アダリムマブBS「MA」自己注射手順ガイド」もあわせて参照してください。
- ・1回の注射について注射器は1本、2本または4本です。1回に全量を使用し、再使用しないでください。

●使用し忘れた場合の対応

決して2回分を一度に使用しないでください。

気がついた時に、1回分を注射してください。その後は、各疾患の使用回数に沿った間隔をあけて注射を行ってください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

【医療機関で使用される場合】

使用量、使用回数、使用方法などは、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において皮下に注射されます。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬は、免疫反応を調節する物質の作用を抑えるので、感染症にかかりやすくなる場合があります。発熱、体がだるいなどがあらわれた場合には、速やかに主治医に相談してください。
- ・過去に結核にかかったことのある人や、この薬を使用する前のツベルクリン反応などの検査が陰性の人でも、結核が疑われるような症状（咳が続く、微熱など）があらわれた場合には、速やかに主治医に連絡してください。
結核感染の診断のために、この薬を使い始める前に胸部X線検査やインターフェロン- γ 遊離試験、ツベルクリン反応検査などが行われます。また、胸部CT検査が行われることがあります。
- ・B型肝炎ウイルスキャリアといわれている人または過去にB型肝炎ウイルスに感染したことのある人（HBs抗原陰性、かつHBc抗体またはHBs抗体陽

性)は、定期的な血液検査が行われます。B型肝炎ウイルスの再活性化が起こっていると思える症状(発熱、体がだるい、皮膚や白眼が黄色くなる、食欲不振など)があらわれた場合には、速やかに医師に連絡してください。

- この薬を使用している間は生ワクチン[麻疹(はしか)、風疹(ふうしん)、おたふくかぜ、水痘(みずぼうそう)、BCGなど]の接種はできません。接種の必要がある場合には主治医に相談してください。
- 脱髄疾患が疑われる人は、この薬を使い始める前に神経学的検査や画像検査が行われ、この薬を使えるかどうかが決まります。
- この薬でアレルギー反応が報告されています。重篤なアレルギー反応(全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸(どうき)、息苦しいなど)またはアナフィラキシー(全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸、息苦しいなど)があらわれた場合は、ただちに使用を中止し受診してください。また、注射部位に紅斑、発赤、疼痛、腫脹(しゅちよう)、そう痒、出血などの注射部位反応があらわれることがありますので注意してください。
- この薬を含む抗TNF製剤により、乾癬(かんせん)が悪化したり、新たにあらわれたりすることが報告されています。この多くは、他の免疫抑制作用がある薬を併用した人において報告されています。多くの例は抗TNF製剤の使用の中止により回復しましたが、他の抗TNF製剤を再度使用することにより再度あらわれた例もあります。このような場合には医師に相談してください。
- この薬でサルコイドーシスの悪化(皮膚、肺または眼の症状)が報告されています。サルコイドーシスの症状が悪化した場合には、医師に相談してください。
- 患者さん自身で注射をした時に副作用と思われる症状があらわれた場合や注射を続けられないと感じた場合は使用を中止し医師または薬剤師に相談してください。
- 妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- 授乳している人は医師に相談してください。
- 妊娠中にこの薬を使用したお母さんから生まれた赤ちゃんが生ワクチン接種を受ける時には、医師に相談してください。
- 他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください。重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
重篤な感染症（敗血症、肺炎など） じゅうとくなかんせんしょう (はいけつしょう、はいえんなど)	発熱、寒気、脈が速くなる、体がだるい、咳、痰、息切れ、息苦しい
結核 けっかく	寝汗をかく、体重が減る、体がだるい、微熱、咳が続く
ループス様症候群 るーぷすようしょうこうぐん	発熱、関節の痛み、体がだるい、顔の赤い発疹、体重が減る
脱髄疾患 だつずいしつかん	まひ、顔の異常な感覚、手足の異常な感覚、見えにくい、意識の低下
重篤なアレルギー反応 じゅうとくなあれるぎーはんのう	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸、息苦しい
重篤な血液障害（再生不良性貧血、汎血球減少症、血小板減少症、白血球減少症、顆粒球減少症） じゅうとくなけつえきしょうがい (さいせいふりょうせいひんけつ、はんけつきゅうげんしょうしょう、けつしょうばんげんしょうしょう、はつけつきゅうげんしょうしょう、かりゅうきゅうげんしょうしょう)	発熱、突然の高熱、寒気、喉の痛み、鼻血、唾液、痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、あおざができる、出血が止まりにくい、出血しやすい、めまい、耳鳴り、頭が重い、動悸、息切れ、体がだるい
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
劇症肝炎 げきしょうかんえん	急な意識の低下、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
肝不全 かんふぜん	意識の低下、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	寒気、発熱、突然の高熱、微熱、体がだるい、疲れやすい、力が入らない、寝汗をかく、体重が減る、急激に体重が増える、ふらつき、まひ、出血が止まりにくい、出血しやすい、体がかゆくなる、食欲不振
頭部	急な意識の低下、意識の低下、めまい、頭が重い
顔面	顔の異常な感覚、鼻血、顔の赤い発疹
眼	見えにくい、白目が黄色くなる
耳	耳鳴り
口や喉	喉のかゆみ、喉の痛み、歯ぐきからの出血、唾液、痰に血が混じる、血を吐く、咳、咳が続く、痰、吐き気
胸部	息苦しい、息切れ、動悸
腹部	お腹が張る
手・足	関節の痛み、手足の異常な感覚、脈が速くなる
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、あおあざができる、皮膚が黄色くなる
便	便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
尿	尿の色が濃くなる

【この薬の形は？】

性状	無色のほとんど澄明またはわずかにタンパク質特有の乳白光を呈する液
容器の 形状	アダリムマブBS皮下注20mgシリンジ0.2mL「MA」
	
	アダリムマブBS皮下注40mgシリンジ0.4mL「MA」
	
	アダリムマブBS皮下注80mgシリンジ0.8mL「MA」
	
アダリムマブBS皮下注40mgペン0.4mL「MA」	
	

【この薬に含まれているのは？】

	アダリムマブBS皮下注20mgシリンジ0.2mL「MA」 アダリムマブBS皮下注40mgシリンジ0.4mL「MA」 アダリムマブBS皮下注80mgシリンジ0.8mL「MA」 アダリムマブBS皮下注40mgペン0.4mL「MA」
有効成分	アダリムマブ（遺伝子組換え） [アダリムマブ後続3]
添加剤	精製白糖 L-メチオニン L-アルギニン塩酸塩 ポリソルベート80

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・注射器の入ったケースをそのまま、凍結を避けて冷蔵庫（2～8℃）にて保管してください。
- ・直射日光と湿気を避けてください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

●廃棄方法は？

- ・使用済みの注射器については、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

販売会社：あゆみ製薬株式会社 (<https://www.ayumi-pharma.com/>)

フリーダイヤル 0120-137-413

受付時間 月～金 9:00～17:30（土、日、祝日、当社休日を除く）

- ・自己注射に関する質問は下記へお問い合わせください。

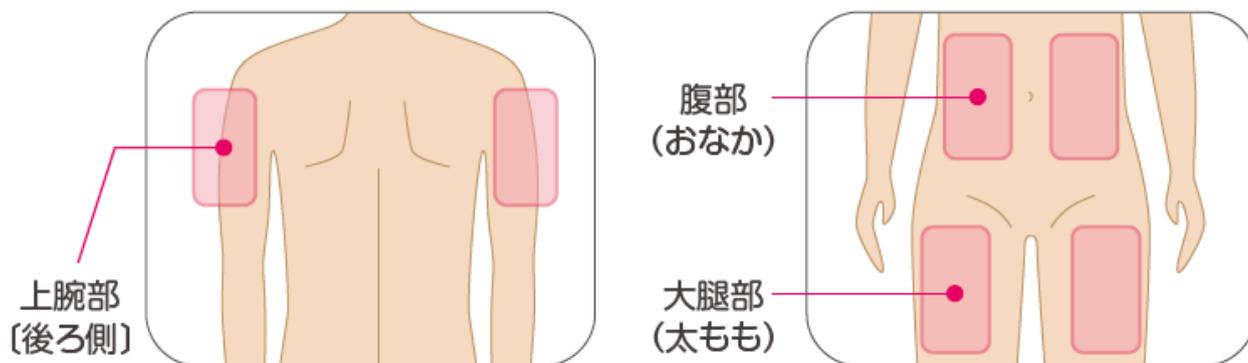
あゆみダイヤル24ー自己注射サポートセンター（患者さん専用）

フリーダイヤル 0120-0874-11（24時間365日）

自己注射の方法

[注射する部位]

- ・注射する部位は、主治医の指示に従ってください。
- ・前回注射した部位とは違う部位に注射してください。もし同じ部位に注射する場合は、前回注射した箇所より3 cm以上離してください。
- ・皮膚に異常（赤い、傷がある、硬い、など）がある部位への注射は避けてください。
- ・注射した部位を覚えておくために、治療記録ノートなどに注射日と注射した部位を必ず記録してください。



[ペン各部]



[ペン注射の準備]

1



① ペンはあらかじめ冷蔵庫から出して、室温に戻しておきます。

- * 注射の15～30分前にペンを冷蔵庫から出してください。
- * 電子レンジや湯せんは使わないでください。

2



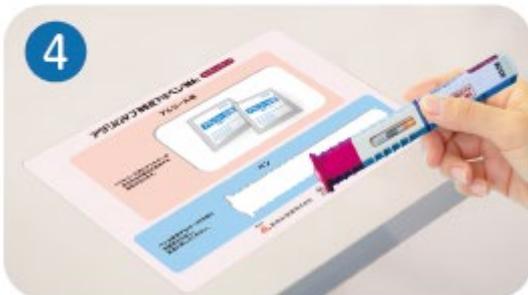
② セッティングシートを置く
清潔な場所を準備します。

3



③ 石鹸で手を十分に洗います。

4



④ セッティングシートを置き、
ペンとアルコール綿を並べ
ます。

- * セッティングシートは清潔なものをご使用ください。

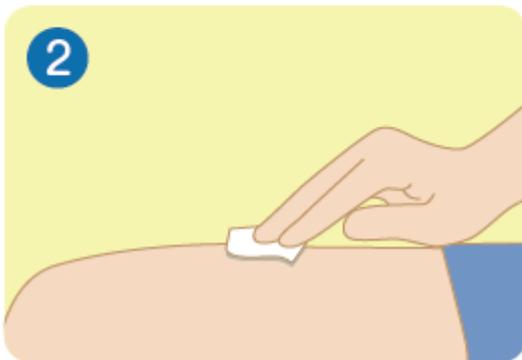
[ペンの注射のしかた（大腿部投与の場合）]

・注射の方法は主治医の指示に従ってください。



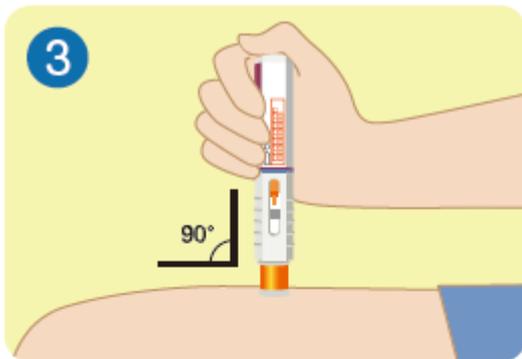
① ペンを袋から取り出します。

* 注射器内に気泡があっても問題ありません。

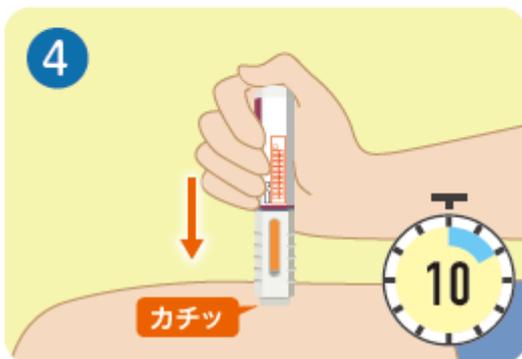
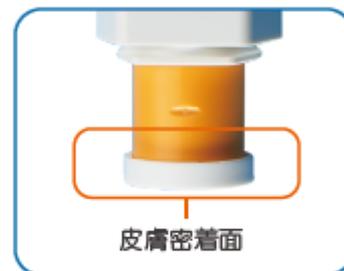


② 注射する部位とその周辺を広めにアルコール綿で消毒します。

注射するまで消毒した部位に手を触れないでください。

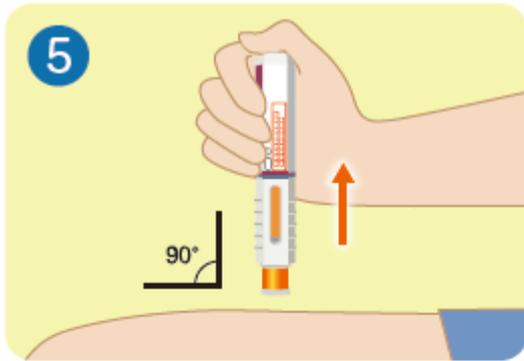


③ ペンのキャップをはずし、ペンの皮膚密着面を皮膚に密着させます。



④ ペンを押し込んで黄色の先端が十分に押し込まれた状態にします。

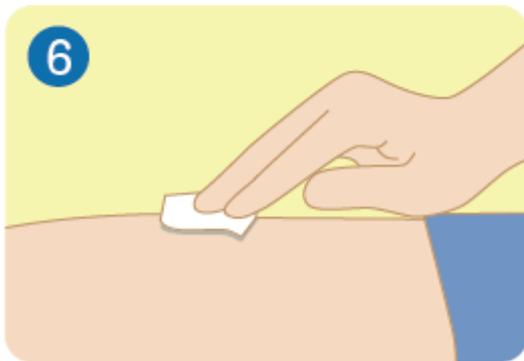
「カチッ」となると注射が始まるので、そのまま約10秒間待ちます。



- 5 約10秒後、薬液表示部が黄色に変わったことを確認し、ペンを直角に離します。

* 注射終了の少し前にもう一度「カチッ」という音が鳴ります。この音は注射が終わった合図ではありません。薬液表示部の色が変わったことを確認してからペンを離してください。

薬液表示部の色が完全に変わらない場合は、同じペンや他のペンで再び注射せず、主治医にご連絡ください。



- 6 注射後は注射部位をアルコール綿で5秒ほど押さえ、もまないでください。

もむとはれることがあります。注射後のペンはキャップをせず、廃棄袋などに入れてください。

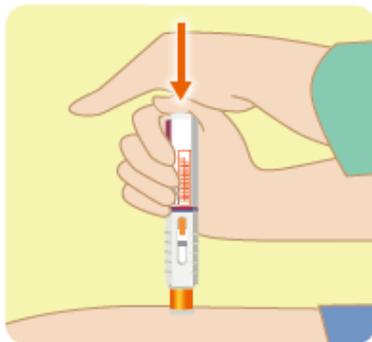
【薬液表示部】



注射前



注射後



注射のポイント

片手で注射が難しい場合は、左のイラストのように、ペンを握っている反対手のひらでペンを押して注射することも可能です。

[注射のしかた（腹部の場合）]

・注射の方法は主治医の指示に従ってください。

1



1 ペンを袋から取り出します。

* 注射器内に気泡があっても問題ありません。

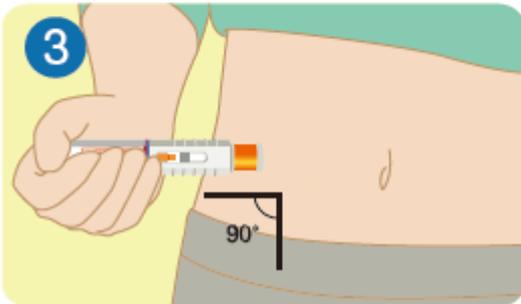
2



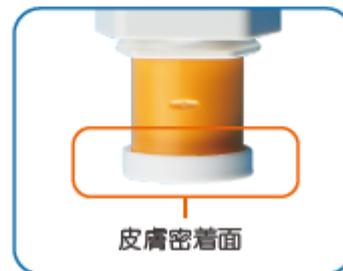
2 注射する部位とその周辺を広めにアルコール綿で消毒します。

注射するまで消毒した部位に手を触れないでください。

3



3 ペンのキャップをはずし、ペンの皮膚密着面を皮膚に密着させます。



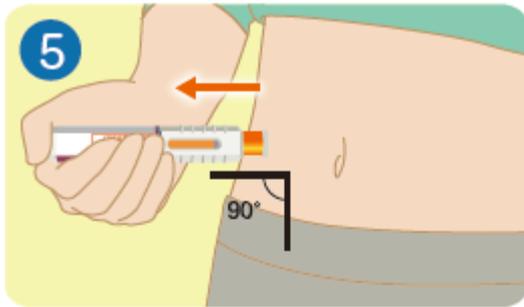
皮下脂肪が少ない、皮膚が柔らかい人などは、注射部位を軽くつまんでください。

4



4 ペンを押し込んで黄色の先端が十分に押し込まれた状態にします。

「カチッ」となると注射が始まるので、そのまま約10秒間待ちます。



- 5 約10秒後、薬液表示部が黄色に変わったことを確認し、ペンを直角に離します。

* 注射終了の少し前にもう一度「カチッ」という音が鳴ります。この音は注射が終わった合図ではありません。薬液表示部の色が変わったことを確認してからペンを離してください。

薬液表示部の色が完全に変わらない場合は、同じペンや他のペンで再び注射せず、主治医にご連絡ください。



- 6 注射後は注射部位をアルコール綿で5秒ほど押さえ、もまないでください。

もむとはれることがあります。注射後のペンはキャップをせず、廃棄袋などに入れてください。

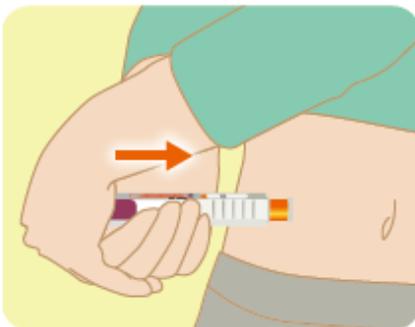
【薬液表示部】



注射前



注射後



注射のポイント

ペンの薬液表示部を上に向けて（見やすい方向に向けて）、薬液表示部を直接確認しながら注射することができます。

片手で注射が難しい場合は、左のイラストのように、ペンを握っている反対手のひらでペンを押して注射することも可能です。

[シリンジ各部]



[シリンジ注射の準備]



- ① シリンジはあらかじめ
冷蔵庫から出して、
室温に戻しておきます。

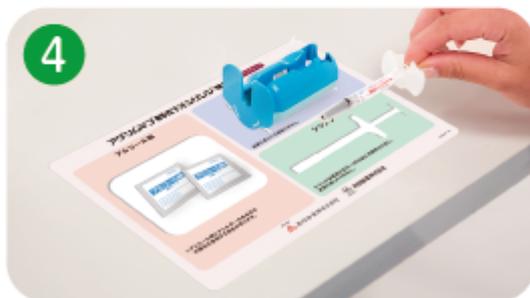
- * 注射の15～30分前にシリンジを
冷蔵庫から出してください。
- * 電子レンジや湯せんは使わないで
ください。



- ② セッティングシートを置く
清潔な場所を準備します。



- ③ 石鹸で手を十分に洗います。

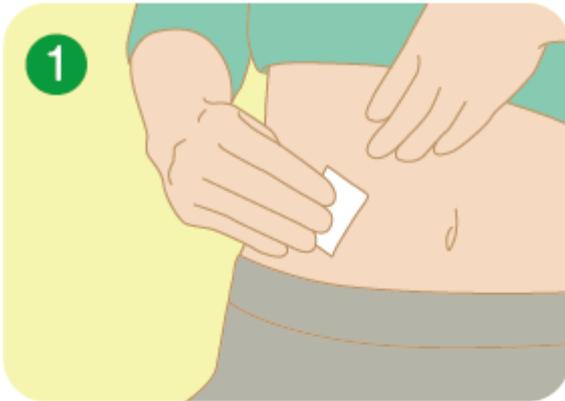


- ④ セッティングシートを置き、
ブリスター包装から取り出し
たシリンジとアルコール綿を
並べます。

- * 必要であれば補助具も準備します。
- * セッティングシートは清潔なものを
ご使用ください。

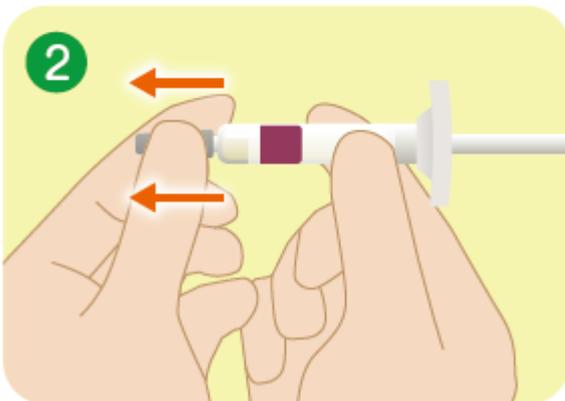
[シリンジの注射のしかた（補助具なしの場合）]

・注射の方法は主治医の指示に従ってください。



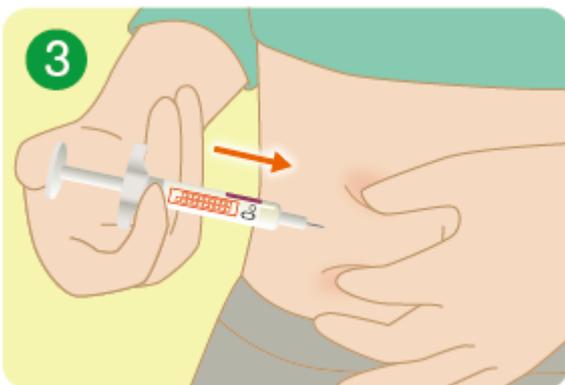
① アルコール綿で消毒します。

注射部位とその周辺をアルコール綿で広めに消毒します。
注射するまで消毒した部位に手を触れないようにしてください。



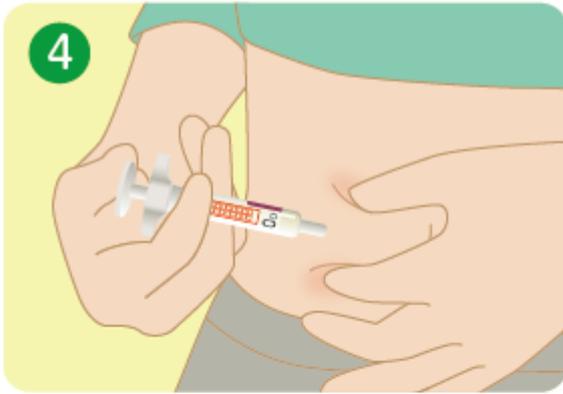
② シリンジの針キャップをはずします。

針キャップを横にまっすぐ引っ張るようにはずしてください。キャップをはずす時に薬液が1、2滴漏れることがありますが、さしつかえありません。



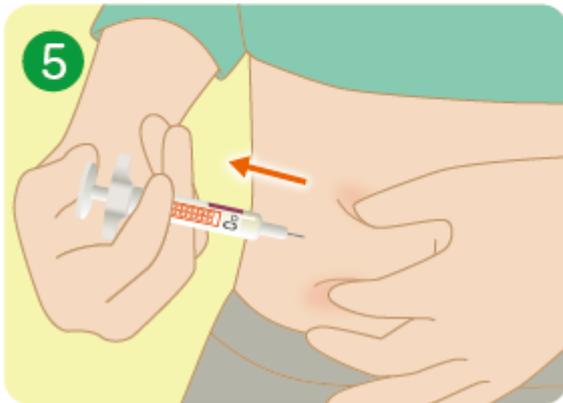
③ 注射針を刺します。

消毒した部位の皮膚を軽くつまんで、注射針を45～90°の角度で刺します。このとき、シリンジ内に気泡があっても問題ありません。
手指の状態により、シリンジの持ち方を工夫してください。



4 薬液を注射します。

しっかりとシリンジを持ち、同じ角度のまま、ゆっくりと内筒を最後まで押しきって薬液を注射します。



5 注射針をまっすぐ抜きます。

薬液の注入が終わったら、同じ角度のまま針を皮膚からすばやく抜きます。



6 注射後は注射部位をアルコール綿で5秒ほど押さえ、もまないでください。

もむとはれることがあります。



7 注射後のシリンジは、針キャップをせず、廃棄用ボックスなどにそのまま入れてください。

[シリンジの注射のしかた（補助具ありの場合）]

・補助具の使い方

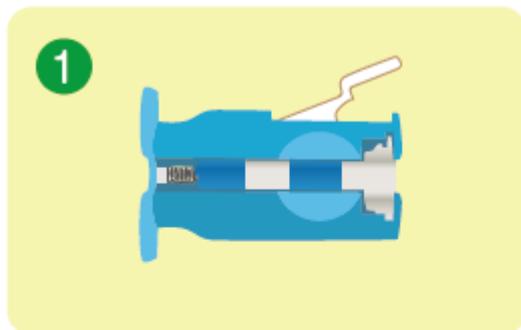
補助具のレバー



レバーが開いている状態
(シリンジがセットされていない状態)



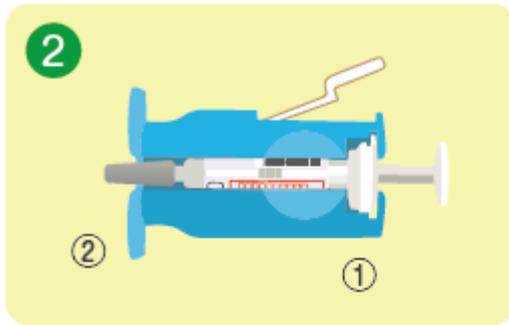
補助具にシリンジをセットした場合



① 補助具のレバーが開いていることを確認します。

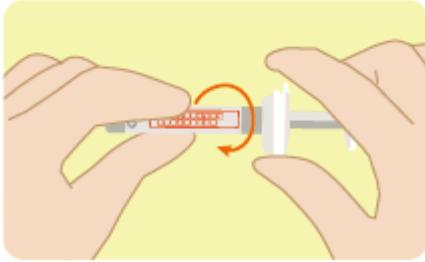


レバーが閉じている場合はシリンジを
セットすることができません。

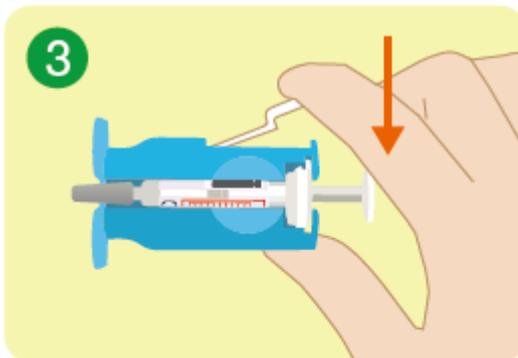


2 針キャップ付きのシリンジを正しい位置に置きます。

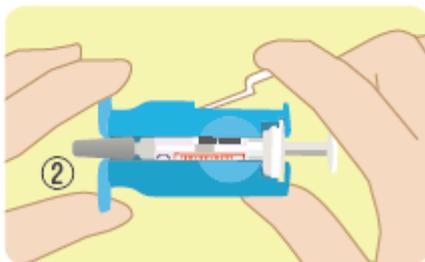
②側に針先がくるようにして①の溝の部分につばもとを置いてください。ラベルのすき間から薬液が見えるように、シリンジを置いてください。



つばもとを固定しながらシリンジ本体を回すと、ラベルのすき間の位置を調節できます。



3 レバーを↓の方向に閉めます。そのままの位置でレバーを閉めます。



②の両端を押さえてレバーを閉めると針キャップが簡単にはずれます。



4 レバーを閉めると針キャップがはずれ、シリンジが固定されます。

針キャップをはずした後は、針先に触れたり、他のものに当たらないように注意してください。

[シリンジの注射のしかた（補助具ありの場合）]

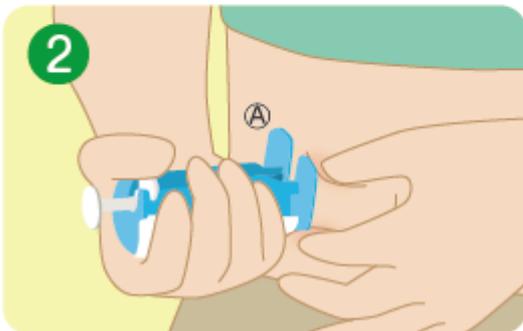
・注射の方法は主治医の指示に従ってください。



① アルコール綿で消毒します。

注射部位とその周辺をアルコール綿で広めに消毒します。

注射するまで消毒した部位に手を触れないようにしてください。



② 注射針をまっすぐ刺します。

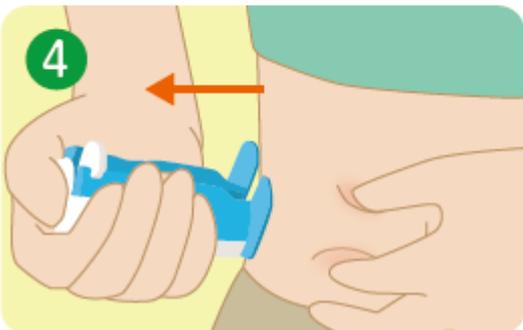
消毒した部位の皮膚を軽くつまんで、注射針をすばやくまっすぐ刺し、**Ⓐ**の部分を皮膚に密着させます。

このとき、シリンジ内に気泡があっても問題ありません。



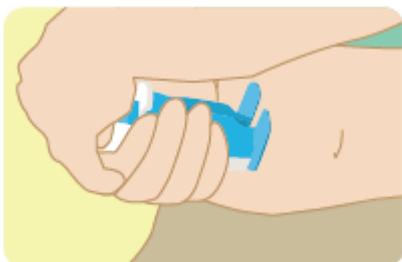
③ 薬液を注射します。

しっかりと補助具を持ち、ゆっくりと内筒を最後まで押しきって薬液を注射します。



④ 注射針を抜きます。

薬液の注入が終わったら、同じ角度のまま針を皮膚からすばやく抜きます。



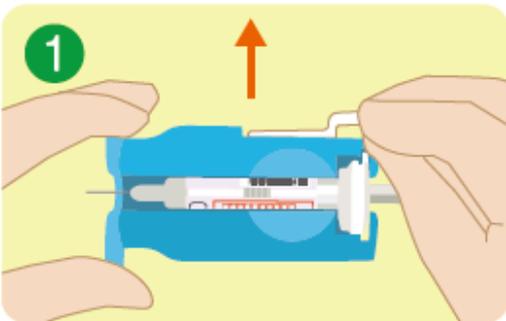
片手で注射しにくい場合は、もう片方の手で内筒を押して薬液を注入することもできます。



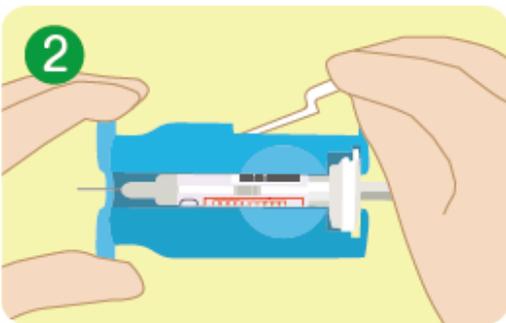
- ⑤ 注射後は注射部位をアルコール綿で5秒ほど押さえ、もまないでください。
もむとはれることがあります。

[シリンジの注射のしかた（補助具ありの場合）]

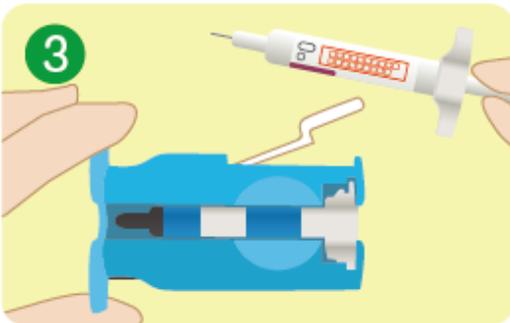
・補助具からシリンジを取り出す方法



- ① レバーを↑の方向に開きます。
指に注射針を刺さないようにしてください。



- ② レバーを開いた時の状態です。



- ③ 補助具からシリンジを取り出します。



- ④ 注射後のシリンジは、針キャップをせず、廃棄用ボックスなどにそのまま入れてください。